

単 位 数	教 科 担 当 者	使用教科書 ・ 補助教科書 ・ その他
1 単位	宍戸亮太 小池裕子	現代高等保健体育（大修館書店）
○ 必 履 修 学校必履修 必修選択 自由選択		

◆学習の目標

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

◆主な学習内容・方法

- (1) 現代社会と健康のうち、健康の考え方、現代の感染症と予防、生活習慣病などの予防と回復、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康、精神疾患の予防と回復などについて理解を深める。
 (2) 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。
 (3) 安全な社会生活のうち、安全な社会づくり、応急手当について理解を深める。
 (4) 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する。

◆到達目標と観点別評価の評価規準

〔到達目標〕

現在および将来の生活において、自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、その大切さについての認識を深めるとともに、健康に関する課題に対して保健の知識及び技能を習得、活用して、自他の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりを目指して的確に思考、判断し、それらを表現することができるような「知識および技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質、能力を育成する。

〔観点別評価の評価規準〕

○知識技能：「現代社会と健康」「安全な社会生活」の内容について、個人および社会生活について総合的に理解できる。また応急手当の内容に関わる技能を身につける。

○思考・判断・表現：健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。

○主体的に学習に取り組む態度：生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度をとることができる。

◆年間予定授業時間

予定時数	35 時間	1 学期（ 13 時間） 2 学期（ 14 時間） 3 学期（ 8 時間 ）
------	-------	--

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

(1) 現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見する。
 (2) 現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明する。
 (3) 健康に関する課題を解決する学習活動として、ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング、実習、実験、課題学習に取り組む。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	学習の内容	学習到達目標
一 学 期	4	現代社会と健康 (13時間)	1 私たちの健康のすがた 1 健康のとらえ方 1 健康と意志決定、行動選択 1 健康に関する環境づくり 2 生活習慣病とその予防 1 がんの原因と予防 1 食事と健康 1 運動と健康 1 休養・睡眠と健康 1 喫煙と健康 1 飲酒と健康 1 薬物乱用と健康	現代の健康問題、ヘルスプロモーションについて理解し、自らの健康を維持増進する方法について考えることができる。 我々のさまざまな生活習慣のうち運動、休養、睡眠、喫煙、飲酒は、特に健康と深く関わっていることを理解し、よりよい生活習慣を身に付けることができる。
	5			
	6			
	7			
二 学 期	8	現代社会と健康 (14時間)	2 現代の感染症 2 感染症の予防 2 性感染症・エイズとその予防 2 欲求と適応機制 2 心身の相関とストレス 2 ストレスへの対処 2 心の健康と自己実現	新たに注目される感染症や再び問題となっている感染症、現代の感染症対策について考え、予防できる。 心身相関について理解し、心身共に健康な生活を送るには何が重要かを理解できる。
	9			
	10			
	11			
三 学 期	12	現代社会と健康 (8時間)	4 3・11を忘れない 1 交通事故の現状と要因 1 交通社会における運転者の資質と責任 1 安全な交通社会づくり 1 防災・防犯をめざした社会づくり	副教材による調べ学習等 現在の交通事故の特徴を学習し、被害者にも加害者にもなる可能性があることを十分に理解できる。交通安全に寄与できる姿勢を身に付けることができる。 応急手当の重要性を理解し、心肺蘇生法を中心にその方法を身に付けることができる。
	1			
	2			
3	3		日常的な応急手当	